

<「知るっば!久留米」 令和2年10月15日(木) 12:30~放送分>

## 城島瓦 ～第3回～ 城島瓦の作り方(2)

<ゲスト: 渋田瓦工場 渋田良一さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

10月は、久留米の伝統産業であります『城島瓦』をテーマにお送りしていきます。

ゲストは、この方です。

ゲスト: 渋田良一さん (以下「渋田」)

城島町の渋田瓦工場、代表の渋田良一です。

よろしくお願いします。

坂本 『城島瓦』第3回は、前回に引き続き『城島瓦の作り方』についてお話をうかがいます。

先週は、原料の土から瓦の成型までの工程をお聞きしましたが、

今週は、成型した瓦を焼いて完成させるまでの工程についてお聞きしたいと思います。

まず、成型した瓦を窯で焼くと思うのですが、やっぱり陶芸みたいに薪で焼くのですか？

渋田 昔は薪で焼いていましたが、今は電気窯です。

瓦は量が多いので、窯も大きいし焼くのに時間もかかります。

坂本 やっぱ窯が大きいと、焼くのに時間もかかるんですね。

渋田 ええ、今の窯は「千枚窯」と言ひまして、千枚は入るぐらい大きい窯です。

坂本 千枚窯ですか、本当に瓦が千枚も入るんですか!?

渋田 いえ、実際にそこまで詰めることはありません。

瓦の種類にもよりますが、例えば鬼瓦であれば、窯の中がスカスカでも焼き上げることがあります。

坂本 燃料は何を使っているのですか？

渋田 今は、ブタンガスですね。

坂本 昔は、当然薪でしょうか？

渋田 はい、薪や石炭でした。

坂本 だんだんと世の中の変化とともに、瓦の焼き方も変わってきたんですね。

渋谷 はい、今はもう楽になりました。

陶芸家さんが使っている登り窯なんか見ますけど、あの大変さと今のように電気窯をセットすれば焼きあがるのとでは大違いですね。

坂本 薪とか石炭では、火加減をずっと見ておかないといけないんですか？

渋谷 ほとんどつきっきりで見えていましたが、それでもなかなか熱が均等にいきわたらないんですよ。

坂本 ガスだったら熱が均一にいきわたるということですか？

渋谷 温度が正確に出るので、ずいぶん窯の方は楽になりました。

坂本 窯は結構大きいんでしょうか？

渋谷 陶芸家さんが見てびっくりせらっしゃるぐらいの大きさですね。

坂本 人が入れるぐらい大きいんですか？

渋谷 何人も入れるぐらい大きいです。

坂本 さっきも少しお話されていましたが、鬼瓦と一般の屋根瓦では大きさも違うので、焼き方も違ってくるのですか？

渋谷 当然火の入れ方も違いますし、鬼瓦は段取り良く火を入れないといけません。

鬼の大きさによって厚みも変わるので、1000度を3時間にしたり4時間にしたりして、煉(ね)らすといいますが、調整しています。

坂本 そういうのは、長年の感覚でされているんですか？

渋谷 それもありますが、給水試験などでデータもとっています。

坂本 そういう科学的な部分もあるんですね。

渋谷 何より工業技術センターの方が月に1回来てくれます。

いろんな方の知恵をお借りして、前向きな気持ちと、科学的なデータも今では必要です。

坂本 伝統的な感覚と最新の科学技術やデータを融合させて、新しく進めていこうということですね。

渋田 そうですね。昔の良さも当然あるし、今の技術の良さもありますので。

坂本 色々な試験や検査でデータを取って、それを基に作っていているということですね。

坂本 城島瓦といえば「いぶし銀」と呼ばれますけど、渋田さんにもいぶし銀の魅力がおありですけど(笑)  
いぶし銀という言葉はよく聞きますが、意味をあまり知らない方も多いと思います。  
いぶし銀とは、そもそもどういうことを指すのでしょうか？

渋田 「いぶし銀」は、私もなかなか説明するのが難しいところで…(笑)  
窯の中を空気が入らない状態にして、不完全燃焼を起こさせて、瓦の生地に炭素を付けるということなんですよね。  
煤(すす)を付けるという感覚でよろしいかと思います。  
瓦生地を普通に焼いただけなら洋瓦と同じ色、橙色ですね。  
しかし、炭素で自然のコーティングをかけてできたものが、いぶし瓦ということだと思います。

坂本 それが、いぶした銀、つまり、いぶし銀ということですね。

渋田 自然素材でいくら塗料が発展しても、この鈍い銀色は出せないと言われています。

坂本 城島瓦は、表面にコーティングされているので様々な変化にも強い。  
だから、屋根瓦にもってこいということですね。

渋田 瓦が適当に水分を吸って吐く、要するに瓦が呼吸をしているようなものだと思うんですよ。

坂本 今月の第1回目、完成した瓦は筑後川を船で運ばれていたというお話がありましたが、瓦はどのあたりに出荷しているのでしょうか？

渋田 うちの場合は、九州一円ですね。  
先だっては、熊本の阿蘇に堀用の瓦を、その前は横浜に出荷しました。  
以前は九州にも瓦の産地がいくつかありましたけど、今ではほとんど廃業状態ですので、九州一円のいぶし瓦、特に堀用の瓦は、城島瓦が九州一円に出回っております。

坂本 城島は、貴重な瓦の生産拠点ということですね。  
興味深いお話をありがとうございました。  
城島瓦に関する質問やお問い合わせは、三瀨総合支所2階久留米南部商工会内にあります城島瓦協同組合までお願いします。  
城島瓦協同組合の電話番号は、0942-64-3649です。  
次回も引き続き、『城島瓦の特徴』をテーマにお届けします。  
渋田瓦工場、渋田良一さん、来週もよろしくお願ひします。